第９代九州地方会会長挨拶

30周年を祝して

福岡歯科大学　臨床教授　**橋　本　敏　昭**
（第9代会長　平成18年4月～平成20年3月）

日本小児歯科学会九州地方会設立30周年を心からお祝い申し上げます。

1963年に日本小児歯科学会が設立され、その後６地域に分割して1983年に北日本・中部・近畿・中四国・九州の５地方会が1986年には関東地方会が設立された。それは中央集権から地方分権へと世の中の流れ、時代の要請によって地域の特色を持った学会運営を行ってゆくことが一つの目的としてあった。実質的には親学会が春と秋年２回行っていた学会の秋の大会を各地方会で行うということが1982年に決まったことが始まりである。これは小児歯科学会だけではなく他の学会も同様の理由で地方会を立ち上げている。九州地方会は初代吉田穰会長のころより九州５大学と開業医が連携して協力しあいながら運営を行うということで基礎を築いてきた30年間の歴史がある。1973年４月に西日本地区においては最初に福岡歯科大学の吉田穰教授が小児歯科学講座として開講され、九州地方会の前身ともいえる西日本小児歯科集談会を創設し、西日本における小児歯科の発展に多大なる貢献をなされた。その後1979年４月に中田稔教授が九州大学で、同1979年５月に木村光孝教授が九州歯科大学で、1982年４月に小椋正教授が鹿児島大学で、翌1983年４月に後藤譲治教授が長崎大学で次々と小児歯科学講座を開設され、その後５大学が中心となり活発な活動が繰り広げられた。現在は福岡歯科大学は本川渉教授から尾崎正雄教授へ、長崎大学は藤原卓教授へ、鹿児島大学は山﨑要一教授へ、九州大学は野中和明教授へ、九州歯科大学は牧憲司教授へと主任教授は５大学すべてが２世代、３世代となり、九州地方会も新たな発展が期待されている。役員会においても今後の地方会のあり方について活発な議論が交わされている。学会というものは議論なくして発展はない。そういった意味からも九州地方会は素晴らしい学会であると思っている。また近年開業医の学会長として故瀬尾令士先生、私、そして現学会長の久芳陽一先生が就任した。これにより大学と開業医の連携、協力体制が一段と強加され、活性化されてきていると思われる。会員の大多数が開業医であることから見ても、開業医の代表が学会長となりリーダーシップをとっていくことは、今後の九州地方会の運営にとっても重要な意味があると考える。

親学会が2009年より一般社団法人となったことより、現在任意団体である地方会のあり方も検討されているが、会員あっての学会であるので、会員の目線に立った学会運営がなされることを願ってやまない。そして地方の特色を生かして今後も末永く発展していくことを切に願っている。